

UNAIDS プレスリリース

緊急に対応しなければ、HIV 関連の結核の死者を 2020 年までに 75%減らすことはできない—UNAIDS が警告

<http://www.unaids.org/en/resources/presscentre/pressreleaseandstatementarchive/2017/march/world-tb-day>

【ジュネーブ 2017 年 3 月 24 日】 世界結核デーの 3 月 24 日、UNAIDS は各国に対し、HIV 陽性者の結核 (TB) による死亡を減らすため一層の努力を要請した。結核は HIV 陽性者にとって、最大の入院および死亡原因となっている。2015 年のエイズ関連の年間死者数は 110 万人で、このうち約 40 万人は結核で死亡している。子どもも 4 万人含まれている。

「これほど多くの HIV 陽性者が結核で死亡し、しかもそのほとんどが診断も治療も受けていない。これは受け入れがたいことです」と UNAIDS のミシェル・シディベ事務局長は語る。「HIV と結核のプログラムの協力をより強化しなければ、HIV と結核という重要な分野の目標を達成することはできません」

世界の HIV 陽性者の結核による死亡の 70%は、コンゴ民主共和国、インド、インドネシア、モザンビーク、ナイジェリア、南アフリカ、タンザニア、ザンビアの 8 カ国で占められている。2020 年までに HIV 陽性者の結核による死亡を 75%減らすというエイズ流行終結に関する 2016 年政治宣言で約束した野心的な目標の実現には、この 8 カ国の対策の規模拡大が必要になる。

保健システムが弱いことから、HIV 陽性者が結核診断の機会を失う状態が続いている。2015 年には結核にかかっている HIV 陽性者の 57%が結核治療を受けていない。診断してもケアにつなげられないこと、追跡が十分でないこと、フォローアップがないこと、結核感染のもっとも高いリスクにさらされている人たち—とりわけ、薬物注射使用者、受刑者、移住労働者といった排除されがちな人たち—とうまく接触できないこと、そして治療成績の悪さなどが、成果があがらない原因となっている。2014 年には、HIV 陽性の結核患者の約 11%が死亡している。HIV 陰性の結核患者は 3%であることと比べ、かなり高い。HIV 陽性者の結核による死亡を防ぐには、早期検査と効果的な治療がとりわけ重要になる。

2015 年には推計 48 万件の多剤耐性結核の新規症例があり、薬剤耐性の問題も非常に懸念されている。この点では最近、結核治療の 2 つの新薬が承認され、60 年ぶりに薬剤耐性結核の患者の治療改善に展望が開けるようになった。

UNAIDS は HIV 陽性者の結核による死亡をなくすこと、保健システムを強化すること、HIV と結核のプログラムのさらなる普及に向けてサービスの統合を進めることを呼びかけている。定期的なスクリーニング検査、予防療法、早期治療といった結核対策は利用しやすく、価格も手頃で、結核による死亡を防ぐ効果が高いことから、各国はこうした対策を含めた HIV 予防・治療プログラムの拡充を進める必要がある。

2016 年の政治宣言に基づき、2020 年までの高速対応ターゲットの達成に努力している各国に対し、UNAIDS は支援を継続していく。その一環として、優先順位の高い 35 カ国に対しては、エイズ流行終結に向けて高い効果の期待できるプログラムに焦点を当て、対策を一段と強化するよう求めている。